

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 (最終))

仁方中学校区 校番 1 学校名 仁方中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	小学校・中学校連携のもと、共通の学校教育目標達成に向けて、経営目標、指標が適切に示されています。昨年度下半期の実績と生徒の現状を踏まえ、これまでと同様の中期経営目標を柱としたうえで、短期経営目標の内容が精査されています。自己指導能力の育成に向けて、生徒指導の3機能を生かした授業改善・授業づくりが生徒の主体性を高め、教科指導の充実につながることを期待します。
目標達成のための方策の適切さ	A	生徒の主体的な学びの実現に向けた方策が昨年度の今後の改善策を踏まえて見直されています。「キュビナの効果的な活用」を掲げ、コグトレ、毎日ノート等とともに学力向上の取組を図ることにより、基礎学力の定着や生徒一人一人の思考力・判断力・表現力が高まることを期待します。呉市が掲げる重点施策の一つである防災教育の「深化」を踏まえ、生徒の主体的行動を養うための防災学習が方策として示されています。仁方中学校の喫緊の課題である不登校生徒の支援がNSR(SSR)を核として方策に盛り込まれています。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	「確かな学力」について、下半期は上半期よりも評価が下がりましたが、保護者・生徒アンケート等も活用しながら、現状を把握し、中間まとめの結果も踏まえて、自己評価の結果を詳細に分析し、課題を整理されています。別途資料により評価のもととなるデータが数値で可視化されているので、評価の内容とともに生徒の実態を把握することができます。
今後の改善策(案)の適切さ	A	結果と分析を踏まえて課題解決に向けて、生徒の現状に応じた継続する取組、更に深める取組等様々な角度から検討された改善策が示されています。その改善策が来年度の目標達成のための方策に繁榮され、家庭学習における保護者との一層の連携をもとに「確かな学力」の向上に繋がることを期待します。
その他		<p>校長の卓越した学校経営能力により、教職員が一体となって学校教育目標達成に向かって着実な教育活動が展開されていると感じます。</p> <p>時間外勤務の削減目標達成のため、生徒と向き合う時間を確保しつつ、限られた時間の中での多忙化により働き方に余裕がなくなることが心配です。本年度から導入された統合型校務支援システムが今後定着し、有効活用されることを期待していますが、現在でも時間外勤務の削減に向けて精一杯の努力をされており、学校現場の取組には限界があると思います。</p> <p>ジェンダー、不登校と考慮していかなければいけない取組がまだまだ見受けられるが、長期的な視点から、少しずつでも方策を掲げて改善に抜けて取り組んでいただけたらと思います。</p> <p>体育大会での生徒の頑張りには関心されました。成功させるという目標に向かっての全生徒の一致団結した姿は立派であった。全生徒の益々の心身健全な育成を記念している。</p> <p>授業参観をして、教職員のはつらつとした前向きな授業で生徒たちもついてきていると感じました。いつも生徒と向き合っていたいただき、ありがとうございます。</p>

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を促す発問を継続していきながら、授業の中で生徒が考える機会を増やし、身近な課題設定で「生活をよりよくしていこう」という視点から生徒が思考を深める授業づくりに小中でき取り組んでいく。 ・年度当初の校内研修で、めあてとまとめの提示の再確認する。 ・「Qubena」(学習進度に応じた個別指導用学習ソフト)を各教科・補充学習・個別学習・家庭学習で効果的に活用できるよう工夫していく。 ・呉市の学校全体が「ジェンダー平等社会・人権尊重社会の実現」を基本的な考え方として生徒指導規定の見直しを図り、生徒の実態に応じ、時代に即した内容となるよう見直しや改善を進めていく。 ・NSRの運営を軸にししながら「居場所づくり」「学習活動の支援」を中心に取組を進めていく。 ・統合型校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。
--------------------	---